

■ 学位論文要旨 (修士)

中国メディアによる典型人物報道の中の 「女性エリート」像の変容

張 芮

(現代社会研究科公共圏創成専攻)

「女」や女性詞を、「名詞」ととじ合わせるといふコトバの作り方が、よくメディアの場に登場している。ニュース、記事、インタビュー、テレビ、雑誌、新聞、様々なところで、そのコトバは「エリート女性」のキャラクターが出る場合によく使われる。例えば、「鉄の娘」「鉄娘子」「女総理」「女企業家」「女科学者」「女政治家」など。だが、それと同じような「男」を伴う表現はほとんど見られない。「女」ととじ合わせることによる「違和感」は、すでに人々の「習慣」「常識」になってしまった。

なぜ、メディアの報道の中に、わざわざ彼女の「女」という身分を提示するのか? 「職業名詞」そのまま、彼女の「身分」を概括できないのか?

メディアが作り出す言説や映像を通して、メディアは男性の基準から立ちあげられたシステムとわかるのではないだろうか。

ジェンダー理論によると、男女が各自の「性別役割」として負担していることは、それぞれの生理特徴からのみ決まることではなくて、その社会文化によって制約されている。両性が持っている「社会的身分」、および性別差異の社会意識は、その社会文化の産物であり、同時に社会文化への反作用である。

ステレオタイプの生産は1日で起きることではなく、日常的メディア実践の歴史的集積として現れる。1950年代から今まで一貫して中国メディアに継続している「典型人物報道」という記事は、長い期間、「エリート女性」報道の経験を積んでいる。そして「典型人物報道」という形式の特殊な「性質」により、「堅い」「鮮明な」ステレオタイプを1つ1つの「エリート女性像」に押し付けて、今日まで深い影響を与えている。

本論文では、新中国誕生以降の3つの時期のメディア報道を取り出して、時代意識に対応した3つの「エリート女性像」の類型を立て、それぞれの報道形式と内容を詳しく分析する。

まず、1950年代～60年代の計画経済時期には、国が生産活動の期待に応じて出現させた「鉄の娘」という「エリート女性像」があった。この「鉄の娘」という女性像は、一方で社会的には賞賛の対象となると同時に、女性労働者に多大な犠牲を強いるものであった。肉体労働で身体を損傷し、女性の特徴の差別視する「鉄の娘」という女性像には、ミソジニー(女性嫌悪)で奇形な女性エリート像しか見ることができないのである。

次に、1980年代の改革開放以後、「職業女性」に対して「仕事と家庭の両立」の期待から現れた「第三類女性」という「エリート女性像」が登場した。「第三類女性」は男性の理想的な形像と女性の自己理想的な形像とを合わせて、伝統と現代の形像が相互に共存している女性像を目指す。一方では、女性が市場経済に向けて、「外」に出ることも期待する。もう一方では、女性が伝統を忘れず、「内」にも役割を務める。この「二重要求」によって「新たな女性の役割」が設定された。「第三類女性」という「理想の箱」に封印されてしまうことにより、「職業女性」に憧れる女性たちに、「どうやって家庭と職場をうまく両立する」とかという「問題」として検討されるモデルになった。中国社会においていまだに根強く残っている性別役割分業意識の問題が解決されない以上、女性労働力は、依然としてその時々社会経済情勢に応じて「必要な時だけ呼ばれる」重宝な労働力であり続けているのである。

そして最後に、2010年代以降のネットメディア

時代に、「ステレオタイプ」の中に徘徊している新たな「女性像」の類型がある。ネットメディアの発展により、グローバリズムと合わせて、新世代の受け手にとって「エリート」の定義も「グローバル化」された。ネットメディア時代における新しい「エリート女性像」においても、彼女の物語にはいつも「男と戦う」姿が伴う。そして、彼女たちはいつも「男との比較」に追い込まれる。どんなに優秀な女性に関する報道でもそのような仕組みに巻き込まれてしまうのである。報道の「主役」が変わっても、報道の仕組みはほとんど変わらない。

大寨の小娘たちは「男のような『鉄の娘』になる」

社会進出を目指して「性別役割分業に挑戦する第三類女性たち」

新たなモデルという使命感の「女博士」「女科学者」

このような「物語」を伴って成長した中国女性は、「自分がどんな人になれるのか」という価値観についてメディアから様々な影響を受けた。メディアはその時代と合わせるモデルを選択した。現在の目から見ると、「女性にはどんなモデルを見てほしいのか」という問いが、新たな時代に求められ、メディアの中で検討されるべき問題である。

本論文では、「エリート女性像」に着目し、典型人物報道における人物像の表現の仕方を分析することにより、「エリート女性像」が様々に変容しても、それぞれの時代に対応してメディアは一貫してほとんど変わらないステレオタイプを押し付けていることが明らかになった。

キーワード：ジェンダー視点 中国メディア 女性像 典型人物報道 エリート